

質問一般

12月12日、15日、16日の3日間にわたって一般質問を行いました。一般質問とは市政全般について市の考えなどを聞くもので、27人の議員が質問を行いました。主な内容は次の通りです。
会派名は略称です。(正式名称は欄外参照)



録画映像

商工業、観光、文化、農林水産業、港の整備など

農道橋梁は早期の把握・長寿命化計画策定を

問 橋長15メートル未満の農道橋梁は基準上長寿命化計画策定の必要はないが、生活交通に利用される橋梁もあり、管理不全による事故があつてからでは遅い。今後どのようなスケジュールで把握や計画策定に取り組むのか。

答 令和7年10月から農道橋梁の状況確認を始めており、令和8年度以降に点検を行い、点検結果を反映した計画の策定を検討していく。状況把握の結果により、計画策定まで複数年要するものと考えている。

問 市の農林水産業を活性化するには、支援の継続・強化に加え、稼げる農林水産業への転換が必要である。今後、農林水産分野の予算を全体的に底上げしていく必要があるが所見を問う。

答 市の農林水産業を未来へ引き継ぐには、生産基盤の維持などに加え、経営安定化、担い手確保、ブランド化推進は重要で、市独自の支援に取り組んできた。引き続きハード・ソフト両面で生産

アイランドシティはまちづくりを見据えたまちづくりを

問 アイランドシティはまちづくりから20年を経て住民も1万6千人を超え、まちとして成熟してきた。今後50年を見据え、持続可能で快適な都市空間形成に向けたまちづくりへの所見を問う。

答 アイランドシティ整備事業は、市民や関係者の理解・協力を得ながら先進的モデル都市づくりや国際物流拠点形成に取り組んできた。今後とも緑や良好な住環境を維持し、まちの魅力を高め、豊かな市民生活の実現に寄与できるまちづくりを推進していく。

問 9月議会での一般質問で、市は「福岡城発掘範囲を拡大」の新聞記事は誤報と答弁した。市長は、メディアに対し都合の悪いことは強引に否定して自らの責任を不問にするような態度を改め、史実を尊重した福岡城跡の復元整備を行うべきだが所見を問う。

答 福岡城跡の天守台調査は、内部発掘調査や石垣・地盤調査を行い、調査の進展や成果を適切なタイミングで公表する。報道機関への対応は引き続き分かり

やすく適切な情報発信に取り組む。

社会福祉、保健衛生、住宅、建築、都市計画、公園など

スピード感を持って広告宣伝(アドトラック)対策を

問 広告宣伝車について市民が不快に感じるのが大きすぎでなく、その内容や音、そして子供も含めさまざまな人が出歩く天神・博多で風俗広告が流されている状況そのものである。スピード感を持ち取り組むべきだが所見を問う。

答 自由な経済活動や憲法で保障する表現の自由を踏まえながらも、市民の不安や不満を解消できるよう、条例改正を契機として、県警察などとも連携し、総合的な対策により、魅力的な景観づくりに取り組んでいく。

問 九州大学が伊都キャンパスを開設し20年を迎えた。市は長年にわたり学術研究都市づくりに取り組み、地域は着実に発展を遂げている。今後も九大伊都キャンパスを核としたまちづくりの取り組みを推進されたいが所見を問う。

答 九州大学学術研究都市づくりにについては、交通アクセス向上に向けた道路整備や土地区画整理事業の実施など、計画的・段階的に進めてきた。今後とも、関係機関と連携し、伊都キャンパスを核としたまちづくりに取り組む。

問 新天町・パルコ街区のまちづくりは、公共性の高い基

盤整備となる新たな地下通路や、商店街の通路部分などの整備を予定している。まちのために貢献する新天町商店街の熱意を受け止め、プロジェクト推進に力添えされたいが市長の意気込みを問う。

答 今回の計画は、まちの記憶の継承や魅力的な施設が導入されることから非常に期待している。市民から愛されるまちづくりとなるように、市としても必要な支援も含め、取り組んでいく。



新天町街区まちづくりのイメージ図

問 今後の市の発展の起爆剤として最大限生かすため、ベスト電器スタジアムの管理や整備の在り方について、市を挙げて検討を始めるべきである。今後の取り組みについて意気込みを問う。

答 ベスト電器スタジアムは、市民に愛され続ける魅力的なスタジアムとなるよう適切に管理・運営を行っていくとともに、今後の管理や整備の在り方について、他都市の事例も参考にしながら検討していくことが必要であると考える。

問 不要不急のインパウンド・MICE優先の大型交通対策ではなく、コミュニティバス、西

鉄バス減便対策など、切実な要求に応える交通対策こそ早急に具体化するべきだが市長の答弁を求める。

答 新たな都市交通基本計画に基づき、コンパクトな都市の強みを生かす交通ネットワークの充実・強化や、オンデマンド交通支援拡充による生活交通の確保など、都市の魅力や活力を高め、市民生活を支える持続可能な交通環境づくりにしっかりと取り組む。

問 新型コロナウイルスワクチンと肺炎球菌ワクチンは季節性インフルエンザ並みの接種費用にできないか。経済格差が命の格差とならないよう、市民が安心して住み続けられる、人に優しい市政に取り組まされたいが市長の決意を問う。

答 効果や安全性等を確認しながら予防接種を実施するとともに、必要とする国民全てが等しく接種できるよう国に要望する等、より健康で安全な暮らしの実現に向けた取り組みをしっかりと進め市民生活の質の向上を図っていく。

問 コロナ罹患後症状やワクチン健康被害はもろろん、健康改善や増進の取り組みは、市民が求めるものとして確実にある。市も基金を活用するなどして未病予防の観点を取り込み、市民の健康づくりの充実を図ってはどうか。

答 市民の健康保持増進の観点から、生活習慣の改善や早期発見・早期治療のための健診などの健康づくり施策を推進している。今後とも、健康づくり基金を活

用しながら、多様化する市民ニーズに柔軟に対応していく。

問 公衆衛生医師は感染症対策、精神保健など公衆衛生領域で中核的な役割を担っており、市医師職の離職防止や積極的なリクルートが必要である。キャリアパスを見える化し、入職した際の魅力をアピールすべきだが所見を問う。

答 市公衆衛生医師については、募集案内に各職階への昇任を例示したキャリアパスも掲載し、保健所見学や事業内容説明などを積極的に行っている。今後ともさまざまな機会や広報媒体を活用し、市で働く魅力を伝えていく。

問 築46年の施設は老朽化だけでなく、市街地からも遠くアクセスが悪い。利便性が良く、誰からも親しまれる日本一の動物愛護管理センターを目指し、一日でも早い移転建て替えを目標に進められたいが決意を問う。

答 動物愛護管理センターについては、動物行政を取り巻く環境の変化に的確に対応するため、早急に機能強化が必要である。まずは、現地改修や移転建て替えなど最適な再整備の手法及びスケジュールについて検討していく。

問 介護サービスの需要増加や経営改善の難しさもあり、事業所の経営努力だけでは人材確保に限界がある。市は中長期的な視点